

## 小笠原で暮らすイルカたち～#89キップとロープ～

今月は1頭のミナミハンドウイルカをご紹介します。  
#89として2002年から識別されている大人のメスのイルカです。尾ビレにキップを切ったような大きな切れ込みがあるため、イルカ調査隊からは「キップ」の愛称で呼ばれています。

この個体、実は2年前の2018年6月に、尾ビレの付け根に細いロープと思われるものが巻き付いた状態で泳いでいる姿が確認されていました。切れた漁具や海を漂うロープが引っかかったのかもしれませんが、その翌月に観察された際もロープはまだ尾ビレに絡んだままであり、その後の調査では出会えていなかったため、しばらくはロープが外れたかどうかはわかりませんでした。それから1年。2019年12月の調査で出会った際によく尾ビレ周辺を観察することができ、この時にはロープが外れていることをしっかりと確認することができました。今でも尾ビレの

付け根にはロープが巻き付いていた痕が残っていますが、ひとまずロープが外れたことに、私たちもホッと胸をなでおろすことができました。

最近では、今年の6月にキップが新生児を連れて泳いでいる姿が観察されています。この夏にドルフィンスイム・ウォッチングツアーに参加される方は、キップ親子が泳いでいる姿を見ることができるかもしれませんね。

さて、人間活動が行われる以上、ゴミを出すなどというのは無理があります。ですが、今回の出来事のように、私たちの生活から出たゴミがイルカたちの暮らしを脅かす一つの要因になってしまうのも事実です。人間活動がイルカたちに与える影響を最小限にするために、このイルカ通信を読んだ皆様一人一人が海ゴミ削減に、そしてイルカたちの暮らしやすい環境の維持にご協力いただければ幸いです。



## ドルフィンウォッチング・スイム自主ルールのご協力をお願いします

小笠原の海には、野生のイルカたちが暮らしています。イルカたちの生息環境の保全と、ツアーへの参加者の安全と快適性を確保するために、自主ルールが制定されています。ツアーに参加される皆様におかれましても、イルカとの出会いを楽しむ上での自主ルールがあることにご理解いただけますようお願いいたします。

1

ひとつの群れにアプローチできる船は、船の大小を問わず4隻までとする。  
(ウォッチングのみの場合も含まれる)

2

2隻以上の船がひとつの群れにバタニングした場合は、水中へのエントリー回数を1隻につき5回以下とする。  
※ただし、必ずしも5回OKというものではなく、その時のイルカの状況や他船への配慮を考慮すること。



(制定：小笠原村観光協会 2005年)